第30期第1回仙台市図書館協議会会議録

◎　会議の日時・場所　　令和3年1月15日（金）13時15分～14時45分
　　仙台市役所上杉分庁舎12階　教育局第1会議室

◎　出席委員の氏名　　遠藤仁委員、小野寺利裕委員、小林直之委員、
　　新迫宏委員、杉山秀子委員、高橋由臣委員、
　　滝川真智子委員、根岸一成委員、堀多佳子委員、
　　真壁直人委員、渡辺祥子委員、渡邊千恵子委員

◎　事務局職員氏名　　市民図書館長　武者元子、市民図書館副館長　松島桂一
　　市民図書館企画運営係長　早坂江美子
　　市民図書館奉仕整理係長　山田千恵美
　　※新型コロナウイルス感染症の拡大を防止し、会場の３密を避けるため、
　　事務局の参加職員を減員して開催した。

◎　会議の概要

１　開　　会

２　教育長挨拶

（教育長　挨拶）

３　委員自己紹介

（委員自己紹介）

４　会長・副会長選出

　会長に遠藤仁委員、副会長に渡邊千恵子委員が推薦され、全委員により承認された。

５　会長・副会長挨拶

（会長・副会長　挨拶）

６　館長挨拶・事務局紹介

（市民図書館長　挨拶）

７　議長選出

　会長を議長に選出。

８　会議録署名委員指名

　会長より渡邊千恵子副会長を指名。

９　報告事項

（１）令和2年度の事業成果について

（市民図書館副館長　報告）

資料にもとづき報告

議　　長　　この事業成果報告書は、大変きれいで見やすくまとまっており、ある意味この資料自体が点検評価のようになっている気がしている。

ただいまの報告に関し、委員の皆様から質問や意見はあるか。

小林直之委員　この資料は、協議会のみでの配付を目的として作成しているのか。

事　務　局　協議会用の資料として用意したものだ。

小林直之委員　遠藤会長のご発言のとおり、大変丁寧に作っていただいているので、図書館のホームページから見られるようにするなど、市民の皆さんに公開してもいいのではないか。

事　務　局　図書館協議会資料としては、ホームページに掲載し、公開しているところだ。

堀 多佳子委員　資料１の１ページの「３ 学校連携事業の推進」にブックトークについて掲載されているが、この実績は図書館職員の皆さんが実施した校数になるのか。

ブックトークボランティア「ランプ」でもブックトークを担当しており、今年度は例年よりは少ないが、小学校 31 校、中学校 2 校の実施となっている。資料に掲載されているのは、小学４年生対象のブックトークだと思うが、「ランプ」の場合は小学１年生から中学 3 年生までを対象に実施している。

事　務　局　今後のまとめの際には、小学４年生以外の回数も、加えさせていただきたいと思う。

議　　長　他にいかがか。

各　委　員　特になし。

10　協議事項

（１）令和 3 年度仙台市図書館運営方針・事業計画策定に向けた「重点事業」案について

（市民図書館副館長　説明）

資料にもとづき説明

議　　長　平成 29 年度から施行されてきた第二次図書館振興計画に基づいて、4 つの柱ごとに事業を進めてきたが、いよいよ最終年度の総括と次の時期に向けての策定などもしなければいけない段階になってきた。次年度の事業について、4 つの重点案を示していただいたので、これについて委員の皆様方からいろいろ質問や意見を頂戴したい。

「(2)絵本を通じたふれあいの機会づくりの研究」に「研究」とあるが、これは実際に事業を実施するというよりは、その手前の方向性などを検討してみるということか。

事　務　局　そのとおり。本格的な実施に向けて、まずは関係者との連携を図るとともに、他都市の調査等により、仙台市スタイルとしてどのような方法があるのか模索しつつ、協議会の委員の皆様のご意見も伺いながら進めていきたいと考えている。

議　　長　これまで、それぞれの柱ごとに、年度ごとに成果を上げてきており、令和 3 年度としてはこの 4 つということだが、いかがか。あるいは、こういうことも加味して検討してほしいなどもあればご意見をいただきたい。

小野寺利裕委員　「(1)地域社会等の課題解決に即した情報の発信」について、「コロナ禍における図書館のあり方」とあるが、要するに、人数を制限することなどを示しているのか。

事　務　局　図書館サービスについて、新型コロナウイルスの感染状況や、あるいは社会状況に応じた図書館の運営を模索していくという意味で入れさせていただいた。現在、アルコー

ル消毒液の設置はもとより、パーテーションの設置や間隔を空けた座席の配置等、さまざまな感染症対策を講じて、利用者の皆さんに協力をいただき、おおむね通常どおりの運営を続けている。今後もコロナ禍を見据えて図書館サービスをどのようにしていくか、引き続き検討していくとともに、何か新しいことがあれば取り入れていくという意味で記載している。

小野寺利裕委員　今のお話をいただいた上で、「(3)社会の変化等に対応した読書環境の整備」が関わってくると思う。電子書籍の貸し出しを検討しながら、社会変化の情勢を踏まえつつ、来館型・非来館型のサービス提供の充実を図る。この部分の充実が図られることによって、「来なくても大丈夫」と言えることになると思うが、どのようにお考えか。

事　務　局　ご指摘いただいたとおり、この重点が相互連動しており、分野が重なっている部分がある。電子書籍をはじめとしてサービスの選択肢を広げるというところは、仙台市として真剣に考えていきたいところであり、来年度の重点として、少しでも進めていければと思っている。

議　　長　他にいかがか。例えば、小さい子どもさんにお話などを提供されている杉山委員あるいは堀委員のほうから、「(2)絵本を通じたふれあいの機会づくりの研究」に関して日頃お考えになっていることはあるか。全国的にはブックスタート運動などもあるが、仙台市でこんなことをやってもらえたらということはあるか。

杉山秀子委員　先ほど、子ども関係の部局との連携という話があったが、具体的にはどう考えておられるか。特に今、保育所入所待機中の子どもも含めて、保育の必要性を迫られている中で、ご家庭にいるお子さんだけではなく、保育施設の中でもどうしていくか、子どもたちにどのように本を手渡すか。その中で、例えば保育関係者との連携を取っていただければ、子どもたちが小学校に入る前に図書館の存在を知ることができ、大変意義があることだと思っていた。何か今後の計画などがあれば教えていただきたい。

事　務　局　方向性として、０歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館ということで、まず絵本と出会う場として、ご家庭での読み聞かせが非常に重要だと思う。図書館はどうしても本の提供になってしまうが、どのような機会、どのような場所で展開するかについて、より効果的な方法を関係部局や各区の保健センター等と連携を取りながら検討したい。例えば健診の会場を利用するとか、あるいは図書館のほうに足を運んでいただくなど、お子さんとお母さん、お父さんとの関わりを持たせていただければと思っており、広い意味でこれから検討をしていきたいと考えている。

杉山秀子委員　特に、初めてお子さんを持った親御さんの中には、早い方だと４カ月あたりから、子どもにこれからどんな絵本を見せたらよいか悩む方もいる。そういう中で、例えば６カ月健診や１歳半健診などの際に、図書館の職員から本について直接教わる機会があるなど、行政で連携を取りながら進めていただけると、０歳から本に親しむということが具現化するのではないかと期待したい。

堀多佳子委員　以前小規模保育園に勤務していたときに、図書館から本を 30 冊ほど借りてきて子どもたちに読み聞かせをしていたことがある。他の保育所も同じように利用しているか分からないが、よい利用の仕方だと思う。借りた本の中で、子どもたちが気に入った本は、

親御さんにも紹介すると、購入したり図書館をもっと利用するきっかけになると思うので、広報をしてはどうか。

議　　長　ご指摘があったように、重点案（1）の中に（3）が少し重なる部分もあるが、4 つの柱立てに沿って、この 4 案で令和 3 年度重点目標として取り組むことでよろしいか。今後、具体的に事業計画を提示いただき、その際に委員の皆様からまたご意見は頂戴したいと思う。この件に関してはよろしいか。

各　委　員　了解。

（２）次期仙台市図書館振興計画の策定について

（市民図書館副館長　説明）

資料にもとづき説明

議　　長　令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 カ年の計画の策定となり、このような時代なので 5 年先まで見通して計画を立てるのは非常に難しいかもしれない。また、国の施策の動きや学校教育をめぐるさまざまな動きがあるので、学校教育に関連する部分は、委員の小中学校の校長先生方にいろいろご意見をいただきながら、図書館として何ができるかということを考えていきたいと思っている。

ただいまの説明に関し、委員の皆様から何か質問や意見はあるか。

新迫宏委員　考え方として聞かせてほしいのだが、「SDGs は国から求められているから文言として入れるのはマスト」ということか。入れないわけにはいかないのか。

事　務　局　仙台市の他の計画においても、SDGs を取り入れる方向性である。

新迫宏委員　猫もしゃくしも SDGs なのだが、この達成に向けた情報の発信ということは、別にこれまでと何ら変わらないのか。具体的にやることがあるのか。

事　務　局　それについては、これまでもやってきたことを明確にするということだ。仙台市図書館としては、SDGs 17 項目の中でも特にこれらを重点的に進めるなど、そういったことを次期計画に盛り込んでいければと思っている。

新迫宏委員　これまでとやっていることは変わらないのに、この計画から唐突に SDGs が出てくるのもいかがなものかと思ったが、了解した。

議　　長　今まで地道にやってきたことについて、見せ方の問題と言ったら言い過ぎだが、整理して位置づけていくということだ。特段、何か新しいものを急いでしなければいけないということでもないと思う。

他にはいかがか。読書バリアフリー法というのも、新しい考え方であり、事務局としては大変事務量が増えて忙しくなると思う。パブリックコメントをもらい、集計して修正してということで、大変忙しい 1 年になるかと思うが、こういった方向性で進めていくことでお願いしたい。

各　委　員　了解。

（３）仙台市図書館振興計画（第二次）に基づく取り組み状況と自己評価

（市民図書館副館長　説明）

資料にもとづき説明

議　　長　参考資料「仙台市図書館年代別利用統計」の数字は非常に興味深く拝見した。次回お出しいただくとき、男女別なども出るか。

事　務　局　性別に関する配慮の関係で、今は利用登録の際に性別欄を設けていないので、難しい。

議　　長　40 歳代、50 歳代と非常に活躍しそうな年代の利用が割と多いことに気づき、男女別ではどうなのかと疑問が生じたため質問したが、了解した。

また、今回自己評価をつけているが、最近では他の部局もこのような流れにあるのか。

事　務　局　全体的にはやはり自己評価をつける流れになっており、これまで協議会にも種々ご報告申し上げきたところだが、今回新しい計画を立てるにあたって、一旦ここで事務局としての自己評価を出してみるということでお示しした。

議　　長　我々もこれまで詳細に報告をいただいており、特に「概ね達成」「計画以上に達成」しているのも、そのとおりと思いながら拝見した。

ただいま説明いただいた資料 4-1、資料 4-2、参考資料も含めて、委員の皆様から質問や意見はあるか。

資料 4-1 の左側の仙台市図書館振興計画と仙台市子ども読書活動推進計画の間が横の棒で結ばれているが、この棒線の意味は何か。図書館として、仙台市子ども読書活動推進計画を参照しつつ、いろいろな施策を考えているという意味で、生涯学習課と連携という意味合いも含めているのか。

事　務　局　図書館の事業が、子ども読書活動推進計画に掲げる事業と重複している部分もあり、会長がおっしゃった連携という意味になるかと思う。

議　　長　生涯学習課では、図書館とはまた違ったチャンネルやネットワークをお持ちなのかもしれないし、独自のイベントなども打ち出しておられるので、相互にうまく情報交換ができて活動に生かすことができれば、もっと充実していくのではないかと感じた。

事　務　局　都市によっては、子ども読書推進計画を図書館の計画に包含するところもあるが、並立させて相互の関係で進めていくことが仙台市の特徴となっている。

議　　長　参考資料についてだが、例えば小中学校のパッケージ貸し出しは、その該当する年齢のところに計上されているのか。30 冊 50 冊とまとめて貸し出すということがあると思うが。

事　務　局　こちらの年代別利用統計は個人貸し出しの数字を計上している。パッケージ貸し出しや特別貸し出しの部分については別統計になっている。この他にもパッケージ貸し出しとしては、小学校に朝読書用パックの貸し出しや総合学習用の国際理解等のテーマ別貸し出しなどを行っている。

議　　長　とかく数字や数値目標を立てて、達成できたかどうかということが問題にされる。数が分かりやすいため示さざるを得ないのだろうが、数だけの問題ではなく、やはり質も重要だと思う。例えば令和 2 年度の重点事業(2)に、小中学校の調べ学習支援の拡充と

あるが、こういったものの成果を評価する場合に、数だけでははかりきれない部分があり、どうやって評価を外に向かって示していくか。うまく示すことができないと、途端に予算削減という話に結びついてくるので、やはり数だけでなく、質的な評価をどう見せていくのかというのが、評価の問題を語る上で、大きな課題、厄介な問題になろうかと思う。今後、委員の皆様のお知恵もいただきながら、きちんと見せていかなければならないと思った。

また、小さいときに本を読まない人は大人になっても、まず読まないだろうと言われているが、統計的にはどうなのか。仙台市の小中学生の数から見て、多いのか少ないのか判断しかねるが、このように数字で示していただくと、いろいろ考える手掛かりになる。

真壁委員から読書感想文コンクールについて話があったが、中学生ぐらいになると読書感想文と聞いただけで抵抗感を示すことはないか。

真壁直人委員　私もそう思っていたが、実際担当してみると、１万点程度の応募があり、このコロナ禍において、大変読書が増えていることが分かった。私の学校においても、冬休み前の図書室の貸し出しが過去最大になった。

読書感想画コンクールも行った。本からイメージして絵に表すものだが、驚くほどたくさんの応募があった。どちらのコンクールもコロナ禍において中止にしようという話もあったが、簡易的に開催して、たくさんの応募の中で、相当レベルの高いものが選ばれており、こういうところにヒントがあるのではと思った。

以前、電子図書の配信について、タブレットが配られることも含めて協議会でもお話ししたが、やはり実際、本としていつでも手に取れることはとても大きいことだと感じている。

議　　長　４、５年前の統計では、学校図書室から１年間に本を借りる冊数の平均値が、小学生は 37 冊ほどだが、中学生になると 6 冊ほどに激減するという統計があり、やはり部活が忙しく、受験もあり、中学生は本を読んでいられないのだと痛感したことがあったが、コロナの影響なのかもしれないが、働きかけ次第の部分もあるのだろうか。

真壁直人委員　私がいた学校では、中学３年生よりも１年生の方がたくさん借りる傾向があった。

議　　長　よく言われるように未来の読書人を育てる意味では、小さい頃から手の届くところに本がある環境をつくっていくことは非常に大事なのだろう。

今回報告いただいた第二次振興計画の概要や成果については、これからの施策を練り上げる際に、皆様のご意見等を頂戴しながら、引き続き協議していくことにしたい。

ここまでで、どの議題に関してでも構わないが、質問や改めての意見があればお願いしたい。

渡辺祥子委員　今回この自己評価の資料を拝見して、成果を洗い出して、そして協議会の意見を鑑みながら、今後の課題を見ていくという、まとめ方から見える取り組みの姿勢というものがとても伝わってきて、素晴らしいと感じた。

それぞれ具体的に行動していく中で、どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実という意味では、コロナ禍が追い風になって、オンライン化を進めて、システム

を強化していかなければならないが、それと共にリアルな部分を、現場にいる司書さんの笑顔一つでもいいので、数では見えない質というものを、ますます強化していってほしいと思った。

今後、デジタル化は進んでいくのだろうが、まだまだ抵抗感を覚える方もおり、リアルな環境の中で育っていく感情や情緒のようなものが絶対にある。オンライン化は時代の流れで進んでいく気がするが、私としては、リアルを充実させてほしいし、どうしても手放しがちな部分を大事にしてほしい。強化したいとか、手放したくないことを、文字としても意識して盛り込んでいただきたいと思った。

杉山秀子委員　私も普段小さい子どもたちと一緒にいるので、特に感じるところがある。実は私の保育園で仙台市図書館の読書通帳を参考に絵本カードをつくったところ、カードの持つ力は大きく、自分で絵本のタイトルを書いて、保護者と一緒に借り、返したら印をもらえるのが嬉しくて、昨年１年間で 120 冊読んだお子さんもいた。そうやって、本を借りれば借りるほど、私たちがこの年代にはぜひこの本を読んでもらいたいと思う本に近づいていくようなところがあって、本を選ぶ力というのは、もしかしたらこうやってついていくのではと思った。

今どうしてもコロナの影響で、私たちもマスクをして子どもと対面しなければいけないが、それに対しての弊害も言われている。特に小さいお子さんにとって、自分と対面する大人がマスクを着けていて、それを外したときのショックや、マスクを着けていることで意思がなかなか通じないことにより、子どもの中に育つべきものが育ちきれないことが懸念されているところだ。

そういうことも含めて、電子書籍については、小さい子どもたちにはまだ早いと思うし、資料 4-2 の 6 ページの「家庭、地域などと連携し、子どもの創造性を育む読書環境を支える輪を広げます」に、「家読（うちどく）」と書いてあったが、ぜひお家で、電子書籍ではない本の温かみを親子で楽しむということを、今だからこそもっと進めてほしいと強く感じている。

これから伸びる子どもたちにとって、今の時代というのは一体どのような弊害が出てくるのか怖いところもあるが、その中で物語やお話の世界の楽しさを何で感じられるかというところを、図書館から発信していただきたいと思う。

議　　長　学校においても、三密を避けるという意味で、今までなら 50 人に対して一度に行っていたことを 25 人ずつに分けて 2 回行わざるをえず、機会が増えて忙しくなることもあるが、やはり対面で伝えなければならないことはどうしてもあって、オンラインでは教育効果が薄れたり、うまく伝わらなかったりすることもある。その辺のところを委員の皆様も懸念されているようなので、手間は掛かるが、ぜひ工夫して取り組んでいただければと思う。

滝川真智子委員　小学校では、コロナ禍になってからの読書や図書館の利用の仕方を、子どもたちと共に教員で工夫しているところだ。来年度からＧＩＧＡ（ギガ）スクール構想により、子どもたちが１人１台端末を持つ。やはり調べる迅速さ、情報量の多さ、簡単さはそれにはかなわないが、子どもたちにとって、読書は別の物として楽しんでいる様子を、日常の子ども

たちの姿から感じる。

学校の図書室では、座席を工夫するとともに、本に対する扱い方を大事にしている。絵本袋を必ず持たせる。本は大事だから、借りたものは必ず返す。本はみんなのものだから、大事にしなければいけない。内容と同時に、図書室で本を読むときの態度を、小さい頃から身に付けさせていきたい。冊数も大事だが、読み方、本と自分の向き合い方が子どもたちにとっては大事だ。本を読むときには資料として読んでいるのか、知識として求めているのか、純粋に物語を楽しんでいるのかさまざまだが、個人的には物語を楽しむ感性や情緒を育てていきたいと感じている。

渡邊千恵子委員　資料 4-2 の 5 ページ、「学校との連携を強化し子どもの読書活動を積極的に推進」のところだが、成果で貸出利用校の数が出ている。74 校から 89 校になって増えていることは分かるのだが、これは仙台市内の小学校と中学校だとすると、全部で何校あるか。180 くらいか。

高橋由臣委員　仙台市立の小中学校をあわせると 187 校になる。

渡邊千恵子委員　この数字だけを見ると増えたように見えるが、180 校ある中でどのくらいが利用しているのか。毎年利用を全くしない学校があるのか、入替えもあるだろうが、もし全く利用しない学校があるとしたら、それは情報が届いていないのか、何が原因なのかということも考えてみるとよいのではないかと思う。

100%利用しなければいけないというわけではないが、小学校と中学校でのパーセンテージの違いも含めて分析してみるとよいのではないか。

事　務　局　各学校への情報提供については、教育委員会内で学校共通のシステムがあり、そのネットワークで発信している。校長会などの機会でも伝達していただいているので、学校への情報は届いていると認識している。

ただ、ご指摘のように、今まで 1 度も利用のない学校などについては、具体的に研究していく余地があると認識しているので、引き続き分析してみたい。

議　　長　次期計画策定に向けては、事務局に大変なご努力を強いることになるが、協議会で委員の皆様のお立場からのご意見をいろいろいただきながら、進めさせていただきたい。今後ともよろしくお願いしたい。

11　その他

次回の協議会について

12　閉　会